

セックス合意チケット

モテない全ての男たちに朗報が入ってきた。

この度、政府ってやつが、なんだか子づくり促進って理由でとあるチケットを発明したんだ。

モテない俺にもチャンス！？チケットの内容は

“セックス合意チケット”

お金とはまた違う。お金は一方通行なのに対して双方向性というか。男女がお互いに欲望を満たし合うため。要は、街で自由に、好みの相手に男女どちらからに関係なく、セックスしませんか！？ってやれるんだ。。

僕と、あるいは私とセックスしませんか！？？

それで即合意となればすぐにでもホテルへ行って挿れる。

パコパコやれるわけだ。

舐め合って抱き合って好き放題。あれやこれや出来るわけだ。

俺はワクワクして街へ出た。予測通り、街ではみんなやってるやってる！！

顔を赤らめ目を細め、女の子たちは足をもじもじさせて。

みんなやりたいときに出来るわけだから、こんな自由な話はない。セックスに対する心のセーブ、言ってみれば倫理観のようなものがなくなって、ポイントはやりたいかやりたくないかだけ。男はチンポがついていればそれでOKなわけだ

だけど各家にはルールブックってのが配られて、どのように拒否するか、なども事細かく定められてはいるんだけどな。

そのルール上でやる。だけどそんなに堅苦しくない。要はセックスしたいと

いう欲望を隠す必要がなくなったっていうかさ。

家に戻った俺。チンポはもうピンピンに立ちっぱなしだ。

いつでもこのチケットをさし出せばセックスのチャンスが手に入るんだっ
っ！！！！

“どうしよう”

机の上に並べられた札束のようなチケットを見て手は震えていた……………。

今すぐにでもこれを持って、街へ飛び出すことだって出来るんだ！！！！

モテなくたってそれはそれで、そんな奴が好きな女の子だっているはずだ。

そんな子が見つかるまで何度も挑戦すればいいだけ。

求愛に対する隔たりがなくなったことが何より大きいんだ。

すると……………！！！！

ピンポーンッッ！！！！

まさか・・・・・・・・・・ね・・・・・・・・

そんなはずは・・・・・・・・。

俺は“何も起こらないはずだ素振り”で玄関のノブを引いた。

すると、目の前にでっかいおっぱいが、もちろん服の上からだが飛び込んできた。

ぶっりーーーんっ！！まるで大きな果実。

目の前にでっかいパンチをくらった衝撃！！笑

「そこの公園の前ですれ違ったとき、なんだかオチンポおいしそうだなーって思ったんで・・・・・・・・」

お姉さんは口を開くやいなや、そんなことを。

そして優しく微笑む。

俺はチンポをピンピンに立てたままだ。

びんびいーーんっ！！暴発してしまいそうなくらい、ズボンの股間の布を大きく上に押し上げ、暴れている。

足は今すぐにでも崩れ落ちそうなくらいガクガクになっていた。

「今後、チケットの新しい展開があるんですかね??」

少し我を取り戻し、ソファに座ってお姉さんと会話する俺。

「そうねえ、流れとしてはやっぱり、恋愛が進んで、小づくり??も促進されるんじゃないかしら」

「人口も増えていくのかなあ」

「時代、っていうか社会も、大きく変わったものね……」

時の流れ、大きな変化に感心しながら俺たちは会話を続けた。

窓の外には小鳥がちゅんちゅん泣いている。

もうすぐ夏がやってくる。

エアコンの室外機から少し音がしている。

「そろそろやろーよ、ねー!!」

少し甘えた声でお姉さんが俺に言った。

俺はまた先ほどの高揚を思い出す。

「は、、、はい！！！！」

お姉さんはポケットから長細いチケットを取り出し、ぴんっと腕を伸ばしてこちらへ差し出した。爪には薄ピンクのネイル。指はとてもきれい。

「お姉さんのおっぱい、すごく美味しそう……………」

体験版はここまでです。
